

ふるさと 総合

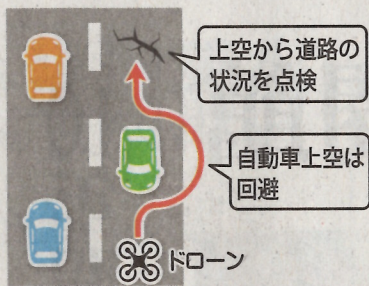
サイバースマートシティ創造協議会

ドローンで道路点検実証へ

「絆」特区」指定の本県で調査

産学官で次世代型スマートシティの構想・社会実装を推進する一般社団法人サイバースマートシティ創造協議会(東京、豊崎禎久代表理事)は、ドローンによる道路点検の実証調査を県内で始める。現行法では原則禁止されている道路上空のドローン飛行で課題を検証し、規制緩和につなげる狙い。本県が指定されている「新技術実装連携「絆」特区」の調査事業の一環。

同協議会によると、現行の航空法上、ドローンでの道路上空の横断通過は可能だが、縦断飛行はできない。調査事業では、ドローンで道路点検のイメージ図



道路上空を縦断飛行し、点検する際の技術的要件やリスク要因などを整理。自動車が接近した場合の回避システムなど安全対策も検討する。将来的な規制改革に向けた提言を目指す。同協議会はこれまで長崎市など全国5市で、車にカメラなどを搭載した「車載型舗装測定」の手法で知見とノウハウを蓄積してきた。ドローンを用いた飛行点検や人工知能(AI)を組み合わせたことで、点検業務の効率化、低コスト化が期待できる。災害時の迅速な

被害実態の把握にもつなげる考えた。10～11月に、長崎市内で実証実験する予定。本年度の連携「絆」特区の県内調査事業は他に3件

(六倉大輔)

カワウソ生息に理解を

対馬 研究者が交流会



日本におけるカワウソの歴史について説明する佐々木氏
＝対馬市厳原町、対馬博物館

研究者らでつくる「日本アジアカワウソ保全協会」は27日、2017年に野生のカワウソが確認された対馬市内で交流会を開き、カワウソの生息環境保全に向けた研究の必要性などを訴えた。

市民ら約20人が参加。筑紫女学園大の名誉教授で、同協会の佐々木浩理事長らが調査研究の現状などを説明した。

佐々木理事長によると、かつて国内各地に分布した

ニホンカワウソは1997年の高知県での確認とされる。2012年に滅種に指定された。対馬では17年にユニーカワウソの生息が確認されたほか、昨年2月も発見されるなどして、佐々木氏は由来を重

「現在の対馬のカワウソに関することが重要述べて、持続的に生息環境を維持していく」研究が必要だと強調でも問題化しているけ」に言及し「魚が育つ海がなければ、ソは定着できない」と市民の理解も重要だかけた。

28日には非公開で視察。痕跡などの発見があったという。30日午後1時から市興善町の市立図書館・不動技研がささ(図書館)でシンポジ

(野崎)

西九州道大塔周辺の渋滞対策
佐世保市長が国
と久野秀敏市議会議
日、中野洋昌国土交

施設値上げ 条例改正案発表

スポーツ施設

整備に730万円

松浦市

松浦市は29日、9月5日

開会予定の定例会に提

雨で被災した農地農
設の復旧事業(16
円)なども盛り込ん
正後の一般会計予算
前年同期比12・2%
11億6500万円